



発行年月日 2014年10月15日

発行者 日本作業科学研究会広報係

ウェブサイト <http://www.jssso.jp/>

作業科学の一翼を担う

文京学院大学保健医療技術学部

西方浩一

ISOSのグループメールで、作業科学の学問性や科学についてのディスカッションが行われ、国際的な視野を持ち、議論を深めていくには、英語力が欠かせないと感じました。さて、そこで話題になっていた学問とは何なのでしょう？

学問には、自然を対象とした自然科学、人間を研究対象とした人文科学や社会現象を対象とした社会科学が存在します。そもそも、上記に挙げた学問が科学と呼ばれるようになったのも、それほど新しいことではなく、産業革命以前に「自然科学、人文科学、社会科学」と呼ばれているものは、「哲学」あるいは「神学」の一部として扱われていたようです。掛谷（2005）によれば、学問とは、「予測する力を持つ体系的知識、およびその知識を得るための研究方法」であると述べています。また、Willard & Spackmanの作業療法（2003）の中で、学問は、常に専門職の仕事を支える大学コミュニティによって承認された知識、学習、学問的探求の一分野であると言われています。作業科学は人間の行動を問題にするので、文化人類学、社会学、心理学に近い社会科学として考えられるべきであると指摘されています。

海外では、作業療法と並列で作業科学を標榜するDepartmentがありますが、日本ではまだまだ少ない現状があります。大学院教育の中で作業科学を学ぶことができる場所も少なく、それに伴い研究者の数は圧倒的に少ないように感じます。日本で、作業科学が学問として成立し、体系づけられ

るためには、まだまだ時間がかかるのではないのでしょうか。そのためには、作業に関心を持つ人々が、研究手法を用いて予測可能なものとして体系づけ、人々の役に立てるように成り立たせることが重要であると思います。社会科学は、様々な要素が相互に複雑かつ密接に絡み合い、人間の意志が要因として含まれ、幅広い学問領域に関連が広がっている点で、自然現象と異なると言われていきます（北中，1998）。

作業科学は、作業の複雑さについて探求し、多様な学問を取り入れ発展してきた背景があります。日本においても、作業の知見を科学としての方法に則り、社会に発表し積み上げていかなければと思います。11月には作業科学セミナーが山口で開催されます。多くの発表とともに参加者との議論が広がり、体系的知識の積み上げになればと思います。

第18回
作業科学セミナー
in 山口
H26.11.15-11.16

YICリハビリテーション大学校
渡辺慎介

既にホームページ等でお知らせしておりますが、2014年11月15日（土）、16日（日）に第18回日本作業科学セミナーをYICリハビリテーショ

ン大学校(山口県宇部市)にて開催いたします。セミナーテーマは「作業科学とリーダーシップ」。作業科学の知識を深め、作業療法士はじめ、他職種、広くは一般市民に伝えたいという思いが込められていると同時に、「リーダーシップという作業」そのものを考える機会として位置付けています。講演は4講演、口述発表5演題、ポスター発表は10演題を予定しております(詳細は日本作業科学研究会ホームページをご参照下さい)。定員は230名に設定しておりますが、まだまだ定員には達していません。参加申込〆切を10月31日に延長しておりますが、定員に満たない場合は再延長して当日受付も考えております。懇親会は交通アクセスを考慮し、初日のセミナー終了後同会場で開催し、懇親会后、宿泊施設、居酒屋等が多い宇部新川駅までシャトルバスを運行する予定であります。懇親会では、山口の文化に触れられる企画を考えております。多くの方に我らが故郷山口にお越しいただくことを願っています。

セミナー準備を開始して1年が経とうとしています。実行委員は山口・作業維新の会(山口県作業科学研究会)で出会ったメンバーを中心に編成し、皆熱いハートを持った者ばかりです。ストイックに、妥協をせず、このセミナーを盛り上げよう準備を進めています。個人的な話ですが、1人で始めた山口・作業維新の会が、今はこんなに熱い仲間にも囲まれ、そして僕の夢であった山口でのセミナー準備という作業が出来ていることにこの上ない幸せを感じています。作業科学をきっかけに、僕は多くの方と出会うことができ、充実感や効力感を得られる日々を過ごしています。

我々の故郷山口で、多くの方と交流できることを楽しみにしています。

おいでませ山口へ!

理事会議事録

平成25年度 第3回日本作業科学研究会 理事会 議事録

日時:平成26年5月25日(日)13:30~16:30

場所:東京都小金井市 社会医学技術学院

出席者:港, 酒井, 西方, 青山, 小田原, 古山, 近藤, 西野, 坂上, 渡辺

【議題:報告と審議事項】

I. 各委員会より

1. 学術委員会

1) 機関誌編集班

〈報告事項〉

・8巻の編集中

・論文が増えるように、研修会でも声をかけた。

〈事項審議〉

・査読者を投稿者から推薦してもらうことについて次回理事会で継続審議

2) 研究推進班

〈報告事項〉

・25年度研修会報告

・5月24, 25日で実施。今後も継続していく予定。

・あらかじめアンケートで興味を聞き、それをワークショップの話題にした。参加者ニーズによりマッチした話題になりやすかった。

3) 実践につなげる班

〈報告事項〉

・26年度研修会について

日時・内容を検討中。8月24日(日)に愛知医療短期大学を予定。

・形式は、前回と類似。現在、実践報告してくれる人を検討中。

4) 啓発・国際情報班

〈報告事項〉

・JOS論文抄録翻訳を中心に活動。新しい翻訳者を増やしており今後も翻訳を充実させていく。

2. 広報・ネットワーク委員会

1) ホームページ担当

- ・12月に引継ぎをして、1月より管理者「つるひめ」に変更.
 - ・松井さんを翻訳の委員からホームページの委員へ変更した.
- 〈審議事項〉
- ・HPに全国のOS勉強会の情報を掲載する.
→掲載方法について委員の上江洲さんと相談して、改めて理事に報告する.
- 2) 研究会ニュース担当
- 〈報告事項〉
- ・村上氏が委員として加わった.
 - ・次回は8月の発行予定. 研究会の記事, 山口OSセミナーを掲載.
- 3) メーリングリスト担当
- 〈報告・審議事項〉
- ・現状維持で, 停滞している. OSセミナー後, 特に稼動していない.
→ニュースがでたときに, メーリングリストに記事の一部を載せて配信する.
 - ・自由に活用できますとの一文も最後に載せることを確認.
3. 学術研究会 (セミナー開催サポートを含む)
- 1) 第17回作業科学セミナー決算・報告
- ・黒字分を研究会の収入とする.
- 2) 第18回作業科学セミナー進捗状況
- ・11月15, 16日. HPにて広報中. OTジャーナル, 機関紙, 各県士会に広報予定.
 - ・各理事には8月30日ころ演題の査読依頼の予定.
 - ・230名定員. 教育講演を別会場にて口述発表1と並行して行う予定.
 - ・ポスター12, 口述6題が可能
 - ・査読, 演題募集等の具体的な手順が不明確
→今後も理事以外の方が実行委員長になることを考えて, 運営マニュアルが必要. 現実行委員長の渡辺さんがマニュアルのたたき台を作成. 11月14日の理事会にマニユア

ルのたたき台を提出してもらい理事会で加筆等をする.

4. 統括 (研究会会長)

- ・26年度選挙について
- ・選挙管理委員長は藤原氏に依頼

5. 事務局

- ・会員数: 235名
- ・決算報告: 615, 968円
- ・本理事会の交通費は請求がなかったが, 次回の総会で交通費も計上.
- ・サポート理事の交通費は旅費で扱う. 第18回のサポートですでに発生している分は平成25年度分で決算する.

II. その他の検討事項

1. 次期理事について

- ・各理事より報告

2. 次回理事会について

- 1) OSセミナー前日と最終日に行う.
- 2) 今回のように十分な話し合いができるように, OT学会とは別の日程で行うかは新役員で決める.

3. 監事の役割範囲についての確認

→原則としてこれまでとは変わらない.

〈内規〉理事会への出席義務はない. 議事録を送る. 今まで通り理事メールを送る.

以上

こんな勉強会しています!

作業の芽

介護老人保健施設 加西白寿苑
橋本浩三

平成23年3月に第1回勉強会を開催し, 発足から3年半が立ちました. 当勉強会では, 『作業の実践を考える勉強会』を大きなテーマとし, 勉強会/研修会/交流会を定期的に開催しています. 具体的には, 事例検討や実際の現場の悩み, 作業を用

いた取り組みを紹介するなど、臨床に近い内容を心がけています。また、ディスカッションを行うことで、視野を広げていく場になればと思っています。

これまで、2回の研修会と18回の勉強会を開催し、毎回20名前後の参加者の方に来て頂いています。また、同じ兵庫県内の他勉強会とのコラボ勉強会も開催しています。

過去には、参加者と将棋・掃除・料理・競馬などを勉強し実践したり、作業科学の研究を勉強したりと幅広い内容を取り上げています。常に、「楽しく眠くない勉強会」を心がけ、クルー全員日々奮闘しながら勉強会を開催しています。

作業の芽の由来ですが、沖縄のOSセミナーに参加した際に感化され、兵庫県内でも作業を考える場が欲しい！「兵庫県で作業の芽が出るように」ということでこの勉強会を発足しました。勉強会発足当初は、作業の視点を他の人にも知ってもらうことを目的として勉強会を開催しましたが、徐々に作業という言葉も浸透し、最近は作業をどう実践に取り入れるのかなど作業と臨床を近づける内容になっていき、作業の芽としても少しずつ成長していると考えています。

和気あいあいとした、楽しい勉強会ですので興味のある方は是非ともご参加下さい。また、遠方で参加できない方もホームページ

(<http://www.geocities.jp/sagyonome/>)やFacebookやTwitter (@sagyonome) で情報を発信していますのでよかったら一度見てみてください。

シリーズ 作業を考える@東北

震災から3年半が経ちます。またこの夏は多くの自然災害がありました。被災した方々、災害に関連し不利を持っている人たちに寄り添いたいものです。あの時の経験を語り合い、忘れることな

く日々を過ごそうと思います。原稿を書いてくださった宗像さん、ありがとうございます。

太田西ノ内病院
宗像暁美

2011年3月11日、私はいつも通りある病棟の一室でexを行っていました。楽しく話をしていると携帯の緊急警報が鳴り始め、同時に強い揺れが襲ってきたのを覚えています。床には物が散乱し、余震の度に悲鳴が聞こえ、Ns達が走り回り、情報が錯綜し、混乱は夜中まで続きました。家に帰るとアパートの部屋の中もゴチャゴチャになっていましたが、ライフラインは確保でき日常生活を送ることが可能な状態でした。その後の食品や日用品、ガソリンなどの物不足には苦勞しましたが、幸いにも当院は何とか病院機能を失うことなく運営を行うことができ、私の日常は通常通りクライアントと向き合うことができ、震災前後での業務内容に大きな変化はありませんでした。

しかし、福島には津波の被害だけではなく原発事故という大きな問題が起きていました。放射能の脅威に有無を言わず非難をしいられた方、子供を守るために避難を決めた方、地元を愛しそこに残ることを決めた方…、福島に住むすべての方のそこにあっただであろう日常や大切な作業は簡単に剥奪されていきました。そして、それぞれの心に傷を残していきました。私自身、「福島で暮らしていけるのか」「この環境の中で避難者や目の前のクライアントに何ができるのか」と不安や憤り、無力感を感じる事が多くありました。

3年半が経った今、そんな私の心を救ってくれているのは“つながり”です。避難を余儀なくされた町の保健師さんと知り合い介護予防事業をお手伝い出来たり、その町の方々と知り合ったり、この震災をきっかけに新たな“つながり”や大切な方々との“つながり”を強めることができました。言葉を交わす事、笑いあうこと、その場を共有すること、その1つ1つの作業が「大丈夫、私たちは前に進むことができる」と背中を押してく

れているような気がしています。“きずな”よりもちょっと軽いけど“つながっている”ということは「私は一人じゃない」と教えてくれ、行う作業の意味も変えてくれています。

昨年、第17回作業科学セミナーを福島で開催することができ、その際にも多くのご支援をいただき新たな“つながり”を作ることができました。感謝の思いでいっぱいです。いただいた“つながり”を大切に育て“きずな”へと成長させていく、その作業が私自身を成長させ、新たな作業への挑戦に“つながる”と信じています。



第2回作業科学にまつわる 研究法研修会開催 関西福祉科学大学保健医療学部 酒井ひとみ

昨年度に引き続き、研究推進班では第2回研修会を平成26年5月24日、26日に社会医学技術学院において開催しました。

研修会の内容は、第1回目のアンケートを参考に、作業科学研究のための基礎知識（作業科学とは何か？研究とは何か？作業科学研究論文の読み方）、作業科学研究の理解（作業科学研究の進め方、ワークショップ）に作業科学の総論を加えました。

今回は、作業科学研究の進め方では、作業科学に関連する博士論文を題材にした質的研究の解説をお願いしました。ワークショップでは、事前に受講者にアンケートを実施しワークショップの内容や進め方を決定しました。参加者のほとんどが作業の研究について興味を持っていながら

も、研究を実施しているものは1割程度であったため、ワークショップでは、具体的な話題提供が可能な方の中から2名を選出させていただき、それを基に、リサーチクエストや目的の明確化、研究方法検討などを行いました。

期間的な制約もあり総論的な内容にならざるを得ませんでした。研修会後のアンケートを参照すると、受講生にとっては、今後学んでいくための具体的な興味と意欲を引き出す機会になったこと、作業の研究に対する切り口が広がった研修会であったようです。もちろん、企画者である私が一番勉強になった研修会でした。

最後になりましたが、博士論文の解説をいただいた聖隷クリストファー大学の小田原悦子さん、話題提供をしてくださった諏訪共立病院の中塚聡さん、介護老人保健施設晴山苑の岡本武志さんをはじめご参集くださった30名の受講生諸氏に感謝申し上げます。

（第2回研究法研修会担当：酒井、近藤、渡辺、西野）



作業科学にまつわる 研究法研修会参加報告

諏訪共立病院
中塚聡

研修会では「作業科学の基礎知識」や「研究の手法」、「文献の読み方」、「臨床の疑問を研究につなげる考え方」などを教わることができました。特にワークショップでは私の臨床での疑問を取り上げて頂き、疑問を明らかにするために、作業や作業科学の視点を踏まえて、何をすべきか、考えることができました。私は作業療法が社会に

貢献するためには作業療法の社会的認知は不可欠と考え、まずは一番身近な当院の他職種に対して「作業に焦点を当てた実践の効果を示すにはどうすればいいか」と悩んでいました。それについて「このテーマはリサーチクエスションとして適切か」、「作業科学の研究テーマになり得るか」、「この研究テーマに役立つ作業科学の研究とはどのようなものか」といった視点から、講師の先生方や参加者同士でディスカッションを行うことができました。作業療法の効果を他職種に分かりやすく示すには、心身機能やADLの変化を量的に示すだけでなく、作業の意味や機能といった質的な変化はどうだったか、又、効果があったと思えたのはどのような事例か、介入では何を・なぜ行ったのか、といったことを調査することで、他職種に示すだけでなく、OTR同士が視点を共有することでより多くの効果的な介入につながることがみえてきました。現在、インタビューガイドを作成し、アンケート調査により、情報の共有をすすめています。今まで作業科学という学問や研究という分野は、臨床とのつながりが見えにくく避けてきましたが、今回、研修会に参加することで、臨床家として研究に目をむけることの意義を実感し、体験することが出来ました。臨床家のみなさんもこのような研修会に参加して、日々の臨床での疑問を掘り下げる体験をしてみませんか。今まで見えなかったことが沢山みえて、臨床という仕事に新しい視点を取り入れることが出来ると思います。

**世界の作業科学者とミングル！：
WFOT学会での国際作業科学協会
ワークショップにて
帝京科学大学
近藤 知子**

ミングルとは、交わる・一緒になる・話をするなどの意味があります。第16回世界作業療法学会の第3日目の午後、90分にわたって行われた国際作業科学協会（ISOS）のワークショップは、世界

の作業科学者や作業に関心をもつ作業療法士がミングルしました。

ISOSは、1999年に異なる国の作業科学者が、国境を越え、作業科学を世界的に広め、高めて行くことを目指す国際組織で、1名の会長を含む5人の理事がいます。作業について興味がある人が誰でもメンバーとなる事が可能で、メールを通して、各国に生じている問題や興味を引く事がら、学会のお知らせなど共有します。また、これまで作業科学や作業療法の国際学会で、作業科学者による討論会や、ワークショップを開催してきています。

先日のワークショップは「作業療法士がより深く人間作業を理解するための研究について話そう」というものでした。作業科学は、25年程前に誕生後、学問的であることに焦点がおかれ、作業療法に直接に役にたつことを目指してきた訳ではありませんでした。しかし、作業が作業療法の核であることがはっきりと謳われるようになり、また、作業科学者の多くが作業療法士でもあることから、作業療法の教育や実践で作業科学がどのように活用されるのがよいかを考えられ始めるようになりました。WFOTでのISOSのワークショップにはこのような流れを汲んでいます。

ワークショップには、当初予想していた50人を遥かに超え100人におよぶ参加者が集まりました。まず、現在会長を務めるAlison Wick氏がISOSの紹介をするとともに自国のオーストラリアの作業科学研究の現状を話し、次いで現理事の米国のPollie Price氏、前理事の南アフリカのRoshan Gavaan氏、前理事のスウェーデンのエリック浅羽氏、そして現理事の私が、それぞれの国の作業科学研究について簡単にまとめました。次いで、参加者全員が10人程度の小グループになり、作業療法で必要とされる研究について話し合い、最後にその内容を3~4グループが発表しました。グループ討論の内容には、自分らしい作業とは何か、施設の中で自分家のような感覚はどのように作れるか、犯罪や依存などのような作業の暗い側面、

医療や健康への政治的背景などがあったようです。

ミングルはとてもエキサイティングで, 参加者の多くの方から面白かったという意見をいただきました。また, 理事による反省会でも, とてもよいワークショップで, 次回も是非このような機会を作ろうということになりました。参加して下さった皆様, 通訳やファシリテーターとして協力して下さった日本作業科学研究会の理事の皆様, どうもありがとうございました。

当日のワークショップの様子に興味のある方は, ISOSのURL <http://www.isocscsci.org/> の About usというバナー, そしてWorkshopという文

字をクリックして下さい。当日の発表, 写真, 討論のまとめを見る事ができます。

ニュース編集 担当 西野歩, 村上典子

ISOSの会員になろう!

世界の作業科学者とのミングルする機会を持ちたい方。国際作業科学協会 (ISOS) の会員になりませんか? 会費は無料, メールを通しての登録をするだけです。会員になり, 世界の作業科学者が発信するメールを受け取りたい方は, ISOSのホームページより, Networkingというバナーを選び, Membersをクリックした後, 画面に現れるISOS Google groupから手順に下がって, メンバー登録をして下さい。グループ管理者から返事がありますので, さらに, 自分の情報などを入れて登録を進めていただければ, 登録が完了します。

帝京科学大学
近藤 知子

